

小学校外国語活動における5年生児童の動機づけを高める授業の設計とその効果：文字指導とポートフォリオのカンファレンスに注目して

北條 礼子*・松崎 邦守**・金安 由理***

(平成26年9月29日受付；平成26年11月5日受理)

要 旨

平成23年度より全国公立小学校高学年において外国語活動（英語）が必修化され、全国で約70%の公立小学校で1年生から同活動が行われている。しかし、現在5年生時点で既に同活動に意欲が低く、不安が高い児童が38%存在していることも報告されている。ここから、児童の同活動への動機づけを高める何らかの手段が必要な状況にある。2013年10月から2014年1月にかけて、5年生児童の同活動への動機づけの向上を目的とし、学習内容として書くことにも重点を置く文字指導を中心とし、さらに自律的学習態度の養成を目指し教授ツールとしてのポートフォリオ作成を実施したが、特にポートフォリオの重要な要素のうち、日本人学習者に効果的であるとされるカンファレンスに焦点を当てた。本学附属小学校5年生66名（有効解答・回答数）が参加したが、学習内容とポートフォリオは参加者から概ね好意的な評価を受け、5年生を対象とした文字指導は効果的であることと教授ツールとしてのポートフォリオの効果が期待できることがわかった。

KEY WORDS

portfolio ポートフォリオ conferencing カンファレンス instructional tool 教授ツール
motivation 動機づけ reading and writing of English 文字学習 phonics フォニックス
language activities at elementary school 小学校外国語活動

1 研究の背景

1. 1 小学校外国語活動（英語）の現状

英語活動は2011（平成23）年度より外国語活動（英語）として全国公立小学校の高学年5・6年生において必修化され、週1回年間35回実施されている。日本英語検定協会（2013）が全国1,463校の公立小学校を対象に実施した外国語活動に関する調査の結果、平成23年度に同活動が平均年間時数として「23-35」時間と「36-70」時間を加えた実施率は5・6年生ともに93%であった。また、4年生以下の平均年間実施時数は、全く同活動を実施しなかったのは1年生では26.6%、2年生では26.6%、3年生では23.0%、4年生では22.1%であり、4年生以下でも70%以上の公立小学校で同活動が行われていたことが報告されている。

外国語活動では英語嫌いを生み出さないことが基本理念（文部科学省、2004）であったが、同活動が必修化された高学年時点で、英語に消極的な態度を示す児童が相当数いることも報告されている（横石・北條、2013）。同活動の必修化の目的が英語嫌いを作らないことであったにもかかわらず、横石・北條は、同活動に対して「低意欲・高不安」の状態になっている子どもが両学年においてそれぞれ38%存在していたとしている。また、中学校入学時に「英語が好き」であり、「中学校で英語を学ぶことが楽しみ」な生徒が50%に達していないことから、吉田（2009）は小学校時代の英語の学習内容が影響している可能性が高いと述べている。

1. 2 高学年児童の外国語活動（英語）への動機づけを高める手立て

現在、5年生時点で外国語活動に対する動機づけが低下することが、問題となっている。この時点で児童の動機づけを低下させない手立てとして、5年生児童の知的欲求に合致するいくつかの手立てが考えられる。具体的には、文字学習、国際交流、他教科関連内容を取り入れた活動、ソーシャル・スキルを組み込んだ活動や、自律的学習態度の養成に効果があるポートフォリオの活用である（北條・松崎、2013）。

1. 2. 1 文字指導

文部科学省（2009）による調査の結果、「英語の授業で楽しいこと」の内容は、学年が進むにつれて「楽しさ」の

内容が変容している。「英語の歌を歌うこと」、「英語で友達と会話すること」に対する楽しさが徐々に低下していく一方、「英語の文字や単語を読むこと」、「英語の文字や単語を書くこと」に対する楽しさが逆に向上している。また、ベネッセ（2011）が中学1年生を対象に実施したアンケートにおいて「小学校卒業までにやっておきたかったと思ったこと」への問に対して、「英単語を書くこと」、「英単語を読むこと」、「英語の文を読むこと」、「アルファベットを書くこと」と全体を通して文字に関する回答が上位を占めていた。以上の結果からも、児童の文字の読み・書きに対する関心が高いと考えられる。

1. 2. 2 カンファレンスに重点を置いたポートフォリオの活用

次に、ポートフォリオは、どのようなものでも収集する雑多ファイルではなく、一言でいうと目的つきファイルである。ポートフォリオは、学習成果を収集しながら学習過程を時系列に記録することができ、学習者は収集された成果を基に自分自身の学習を定期的に振り返ることにより修正していくことができる。さらに、協同学習という観点から、カンファレンスではそれぞれの学習成果についてお互いに発表し合うことで学習者間の学び合いを促進することが可能となる。

筆者らは、これまで、学習者の自己調整学習能力を高めるためにポートフォリオを教授ツールとして活用し英語学習の様々な教育分野でポートフォリオを活用してきた。ポートフォリオ作成には、学習の指針を示すガイドラインの事前明示、授業の振り返りを記述するゴールカードの実施、ポートフォリオ作成をとおして学習したことを定期的話し合いをしながら振り返る場としてのカンファレンスの実施を組み込んできた（松崎 2003；2004；松崎・北條 2007）。さらに、小学生高学年児童に対しても、ポートフォリオが教授ツールとして効果が期待されることと、特にカンファレンスの効果が高いことが明らかになった（北條・松崎, 2013）。

2. 研究の目的

本研究の第一の目的は、児童の知的好奇心に働きかけると言われている読むことばかりでなく書くことを積極的に取り入れた文字指導中心の外国語活動プログラムを開発することである。

本研究の第二のプログラムは高学年児童を対象としたポートフォリオの効果を明らかにすることである。

3. 研究の方法

3. 1 実験実施時期

2013年10月～2014年1月

3. 2 対象者

教員養成系J大学附属小学校5年生66名（有効解答・回答数）

3. 3 測定具

- ①開発したプログラム全体の評価としてのARCS動機づけモデルによる5項目
- ②学習内容に関する5段階尺度形式3項目
- ③ポートフォリオのカンファレンスに関する5段階尺度形式6項目
- ④事後アンケート結果（自由記述）
- ⑤事前・事後テスト10項目（音声による単語書き取りテスト）

3. 4 プログラム開発の留意点

学習プログラムの設計に際し、次の2点に留意した。まず、学習内容として、フォニックス・ルール学習（二文字子音、連続子音）は絵カードを用いて導入すること、その後、学んだフォニックス・ルールを用いたチャンツやゲーム活動、ワンポイント講座（映画のスク립トから学んだフォニックス・ルールが用いられている英文を選抜し、発音や抑揚に気をつけて英語らしく言う練習）、書く活動（アルファベット・マスター）を考案した。次に、ポートフォリオの活用については、これまで筆者らが実践してきた研究結果から、ポートフォリオ作成過程で重要な活動であることが明らかになった、①ガイドラインの事前明示（今回は時間制限のため簡単な説明を実施）、②ゴールカー

ドの実施，③カンファレンスの実施，④カンファレンス（仲間との学び合いの活動）の4つの活動を組み入れたが，特にカンファレンスに重点を置いた。

3. 4. 1 学習計画

開発した学習プログラムの学習計画は表1に示すとおり実施した。1モジュール30分で各回の授業を実施したが，第1時間目には事前テストとポートフォリオの説明（ガイドライン），第6時間目には中間のカンファレンス，第10時間目には最終カンファレンスを実施した。

表1 5年生外国語活動学習計画

時間	学習内容
1時間目 10月11日	○事前テスト ○ポートフォリオ作成用ガイドライン
2時間目 11月1日	○ゴールカードの記入（めあて・振り返り・自己評価） ○二文字子音（phとwh）と書く活動
3時間目 11月8日	○ゴールカードの記入（同上） ○二文字子音（2つのth）と書く活動
4時間目 11月15日	○ゴールカードの記入（同上） ○二文字子音（shとch）と書く活動
5時間目 11月20日	○ゴールカードの記入（同上） ○二文字子音（ckとng）と書く活動
6時間目 11月29日	○グループ・カンファレンス（中間）
7時間目 12月6日	○ゴールカードの記入（同上） ○連続子音（bl, br, fl, fr, gl, gr, dr, cl）と書く活動
8時間目 12月13日	○ゴールカードの記入（同上） ○glue, slow, spring, tree, stamp, skateの読み方と書く活動
9時間目 1月10日	○二文字子音，連続子音の復習 ○グループカンファレンス（最終）の準備
10時間目 1月24日	○グループカンファレンス（最終） ○事後テスト

3. 4. 2 カンファレンスと仲間との学び合いの活動

カンファレンスは中間時期の6回目と最終の10回目に実施した。ここでのカンファレンスは仲間との学び愛の活動ともいえる。カンファレンスに必要な書式は，通常カンファレンス・シートといているものを「学び愛シート」（以下参照）とし，カンファレンス直後に記入するカンファレンス・リフレクション・シートは書式を簡略化し，「学び愛シート」の裏面にし，2回のカンファレンスで用いた。2回目の最終カンファレンスで用いたものを以下に示す。

2014年1月

学び愛シート

5年 組 番 名前

※やくそく



アルファベット君

書き方の悪い例

- ・「No!! (とくになし)」
- ・「例と同じ」
- ※友達聞いてもわからないし、自分の言葉で伝えよう!
- ・「①ワンポイントこうざ楽しかった。よくわかった」
- ※何が楽しかったのか、よくわかったのか具体的に書こう!
- ・「②英語の書き方がよくわかった」
- ※何がよくわかったのか相手にもわかるように書こう!

書き方の良い例

- ・「①ワンポイントこうざのWhat a wonderful phrase!では感情をこめて言うのが楽しかったし、感情をこめていうことを知った。」
- ・「②単語の書き方を学びました。今まではつなげて書いていたけど、単語と単語のあいだはあけることを知りました。」

1 振り返りをしよう

2文字子音・連続子音の活動(①発音練習とワンポイントこうざ・②ワードマスター)をして、前よりできるようになったこと/よくなったことを、それぞれ①と②具体的に相手に伝わるように書きましょう。

※過去の振り返りシート、ワードマスター、1回目の学び愛シートを参考にして書きましょう。


『これから、外国語活動についてふりかえったことを発表します。2文字子音の活動、①発音練習とワンポイントこうざ・②ワードマスター)をして、前よりできるようになったことは、

① について

② について

以上です。コメントをよろしくお願いします。

友達からももらったコメントをはっておこう！

<p>友達のコメントをはろう！</p>  <p>アルファベット君</p>	<p>友達のコメントをはろう！</p> <p>※コメントを書く注意！！</p> <p>思いやりのあるコメントを書こう！</p> <p>「すごいね」「よかったね」「がんばってね」だけでは、せっかく発表したのに、発表者にもらってもうれしくないよね。 友達にもらってあたたかくなるようなコメントを書こう！</p>
<p>友達のコメントをはろう！</p>	<p>友達のコメントをはろう！</p>

3. 4. 3 ワードマスター

本研究で開発したワードマスターの例は以下のとおりである。

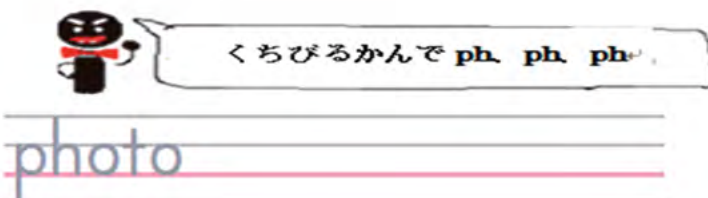
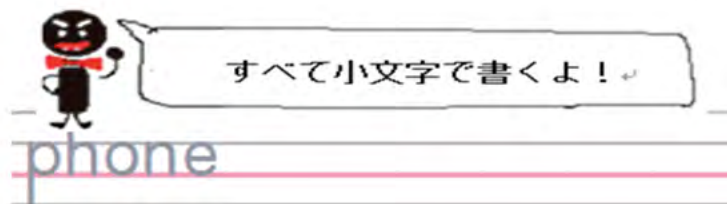
めざせ！！ワードマスター



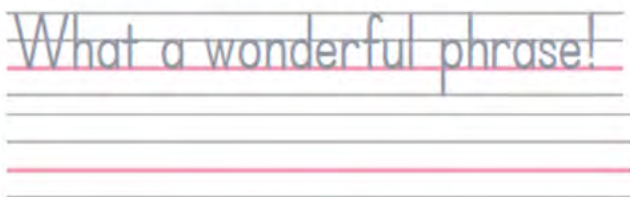
やくそく

- ① 単語はすべて小文字で書くよ。文章は最初の一字だけ大文字で書くよ。
- ② 一単語3回以上練習しよう！
- ③ 次の金曜日の朝までに、ばくばく君の口の中に入れよう。

単語練習をしよう



2 今日のワンポイントこうざ



なんてすばらしい
言葉なんだ！

画像

What a wonderful phrase!



3. 5 分析方法

直接確率計算（母比率不等），分散分析

4. 研究の結果と考察

4. 1 ARCS動機づけに基づく外国語活動全体に対する評価について

開発したプログラム全体の評価としてのARCS動機づけモデルによる5項目それぞれの平均 (M) と標準偏差 (SD) と、5階尺度形式の頻度数を2段階（「はい、少しはい」を「肯定」、「どちらでもない、少しいい、いいえ」を「(それ以外の) 中+否」とした度数と、それを基にした「2:3」の母比率不等の直接確率計算結果は表2のとおりである。5項目中「自信」に関する項目は3.41と必ずしも高い数値ではなかったが、この項目以外の平均が3.90以上（5点満点）であり本研究の参加者は概ね好意的に評価していた。また、母比率不等の直接確率計算の結果、全5項目は1%レベルで有意に肯定的な回答数がそれ以外の回答数より多かった。ここから、本研究の参加者は文字学習を中心とし、ポートフォリオ作成を組み入れた外国語活動について関心、関連性、自信、満足、意欲の5つの側面において肯定的な評価をしていたことが明らかになった。

表2 文字指導とビデオレター作成それぞれに対するARCS動機づけモデルによる5項目の平均(M)と標準偏差(SD)ならびに度数と母比率不等の直接確率計算結果(N=66)

項目内容	M	SD	肯定	中+否	p		比較
外国語活動は全体として：							
1 おもしろかった	4.24	0.90	57	9	.00	**	肯>中・否
2 やりがいがあった	4.24	0.79	54	11	.00	**	肯>中・否
3 自信がついた	3.41	1.19	37	29	.00	**	肯>中・否
4 満足した	3.98	1.02	47	19	.00	**	肯>中・否
5 もっとやってみたい	4.14	0.86	50	16	.00	**	肯>中・否

**p<.01

4. 2 学習内容に対する評価について

学習内容に対する評価としての5段階尺度形式3項目それぞれの平均(M)と標準偏差(SD)と、5階尺度形式の頻度数を2段階(「はい、少しはい」を「肯定」、「どちらでもない、少しいい、いいえ」を「(それ以外)の中+否」とした度数と、それを基にした「2:3」の母比率不等の直接確率計算結果は表3のとおりである。

表3 活動内容に対する3項目による評価の平均(M)と標準偏差(SD)(N=66)

項目内容	M	SD	肯定	中+否	p		比較
外国語活動は全体として：							
1 ワンポイント講座により海外の映画に対する関心が高まった	4.38	0.87	57	9	.00	**	肯>中・否
2 ワードマスターで英語を書くことは楽しかった	4.30	0.89	56	10	.00	**	肯>中・否
3 外国語活動は全体として楽しかった	4.24	0.90	57	9	.00	**	肯>中・否

**p<.01

表3から、活動内容に対する3項目の平均は4.24から4.38を推移しており、高い評価を受けていた。また直接確率計算の結果、全3項目において1%レベルで有意に肯定的な回答が多かったことから、本研究の参加者である5年生はワンポイント講座で英語らしく英文を言うこと、書くこと、外国語活動全体を楽しいと肯定的に捉えていたことが示された。

4. 3 外国語活動におけるポートフォリオ活用に対する評価について

外国語活動におけるポートフォリオの活用に関する5段階尺度形式6項目それぞれの平均(M)と標準偏差(SD)と、5階尺度形式の頻度数を2段階(「はい、少しはい」を「肯定」、「どちらでもない、少しいい、いいえ」を「(それ以外)の中+否」とした度数と、それを基にした「2:3」の母比率不等の直接確率計算結果は表4のとおりである。

表4の6項目は5点満点であるが、平均は3.92~4.36を推移しており、6項目中5項目が4.00以上であった。また、直接確率計算の結果、全6項目が1%レベルで有意に肯定的な回答が中立と否定的な回答数より有意に多かった。以上から、本研究の教授ツールとしてのポートフォリオは、5年生児童から肯定的な評価を受けていたと考えられる。また、カンファレンスにおいて友人の発表を聞いたり、自分の発表へのコメントを読んだりして意欲を刺激されたり、自分の学習を振り返ることができたことや、カンファレンスに関する得点が高い傾向がみられた。北條・松崎(2013)の研究結果では、5年生を対象とした外国語活動においてポートフォリオのカンファレンスが概ね高い評価を受けていたが、本研究ではカンファレンスに関してさらに数値が高い評価を受けた。この先行研究では、海外交流としてクリスマス・カードとビデオレターを作成する学習内容であり、今回は書くことを積極的に取り入れた文字学習が主な活動内容であった。直接比較することはできないが、児童の文字学習に対する関心が高いこともこの結果の理由となっている可能性が考えられる。

表4 外国語活動におけるポートフォリオを活用関連6項目の平均(M)と標準偏差(SD) (N=66)

	項目内容	M	SD	肯定	中+否	p		比較
1	カンファレンスで自分の学習を振り返ることができた	4.12	0.94	57	9	.00	**	肯>中・否
2	友だちの発表を聞いて、友だちの良いところに気づけた	3.92	1.00	56	10	.00	**	肯>中・否
3	友だちの発表を聞いて、自分も頑張ろうと思った	4.17	0.85	52	14	.00	**	肯>中・否
4	自分の学習に活かせるようなことを見つけることができた	4.27	0.9	49	17	.00	**	肯>中・否
5	友だちのコメントで、もっと頑張ろうと思った	4.36	1.19	53	13	.09	**	肯>中・否
6	カンファレンスはやってよかった	4.23	0.23	55	11	.00	**	肯>中・否

** $p < .01$

4.4 事後アンケート結果(自由記述)について

事後アンケートにおいて自由記述形式で、「一番楽しかった活動は何ですか」と「一番役立った活動は何ですか」について回答を得た。「一番楽しかった活動は何ですか」という問いに対する集計結果は、ワンポイント講座が41, ワードマスターが4, 学び愛(カンファレンス)が2, 音読みの活動が14, 特になしが5であった。この集計結果について χ^2 検定を行ったところ1%レベルで有意であり($\chi^2_{(4)}=79.61, p<.01$), ライアンの名義尺度による多重比較の結果, ワンポイント講座が5年生にとって最も楽しい活動であったことがわかった。さらに、「一番役立った活動は何ですか」という問いに対する回答を集計したところ, ワンポイント講座が24, 音読みの活動が12, ワードマスターが29, 学び愛(カンファレンス)が1という結果であった。この集計結果について χ^2 検定を行ったところ1%レベルで有意であり($\chi^2_{(3)}=28.67, p<.01$), ライアンの名義尺度による多重比較の結果, 特にワードマスターとワンポイント講座が役立つと思う児童が多かった。以上から, 本研究の参加者である5年生は, オーセンティックな映画のセリフを読んで言ってみるワンポイント講座が最も楽しいと感じ, ワードマスターによる英単語や英語のセリフを書いてみる書く活動が自分に役立つものであると感じていたことが示された。

4.5 事前・事後テストについて

英単語の書き取りテスト(10問, 各1点, 10点満点)を事前テスト, 事後テストとして実施した。事前テスト, 事後テストそれぞれの平均(M)と標準偏差(SD)と分散分析結果は表5に示すとおりである。

表5 英単語書き取りテスト10問の平均(M)と標準偏差(SD)及び分散分析の結果(N=66)

事前テスト		事後テスト		分散分析結果		比較	
M	SD	M	SD	F(1, 65)	p	事前	事後
1.26	2.43	2.56	3.40	15.44	**		<

** $p < .01$

表5から, 事後テストの得点は1%レベルで向上していた($F(1,65)=15.44, p<.01$)。ただし, テストの得点は向上したものの, 平均が十分に高くないことから英単語の書き取りは5年生にとって容易ではないと考えられる。

5 今後の課題

本研究の外国語活動におけるポートフォリオを活用し, 積極的に書く活動を取り入れた文字学習を中心とした外国語活動は, 5年生児童から肯定的な反応が得られた。学習したフォニックス・ルールを用いて映画のセリフという簡単なオーセンティックな英文を英語らしく言ってみる活動, 英単語や英文を書いてみる活動は, おもしろく, やりが

いがあり、またやってみたいという反応が得られた。また、ポートフォリオでは、特にカンファレンスの有効性が確認された。しかし、カンファレンスの時間が必ずしも十分ではなかったことから、発表ルールの一層の工夫も必要であると思われる。今後は、ポートフォリオ活用の効果がより向上するように、さらなる工夫を行う必要があると思われる。

引用・参考文献

- ベネッセコーポレーション校英語に関する基本調査（教員調査）第2部 第1章 第1節英語活動の実態。2013年9月1日検索。
http://benesse.jp/berd/center/open/report/syo_eigo/2006/pdf/data_07.pdf
- Curtain, H., & Pesola, C.A. (1994). *Languages and children: Making the match* (2nd ed). White Plains, NY: Longman. (伊藤克敏ほか(編).『児童外国語教育ハンドブック』. 東京: 研究社, 2005).
- 北條礼子・松崎邦守. (2007). 「看護学生を対象とした教授ツールとしてのポートフォリオを活用したshow and tell手法による英語表現(英作文・スピーチ)学習の検討」. 『上越教育大学研究紀要』. 26, 287-297.
- 北條礼子・大田亜紀. (2009). 「幼稚園児・小学生の知的好奇心を刺激する英語教育の学習プログラムの構築」. 『教育実践研究』. 第19集. 19-26.
- 北條礼子・君佳子. (2010). 「文字指導を中心とした小学校英語活動の試み」. 『教育実践研究』. 第20集. 19-26.
- 北條礼子. (2011). 「ポートフォリオを活用した反省的実践家としての小学校英語教員養成プログラムの設計と試行」. 『上越教育大学紀要』. 30, 191-199.
- 北條礼子・君佳子. (2011). 「小学校英語活動における文字指導の試み」. 『教育実践研究』. 第21集. 1-8.
- 北條礼子・松崎邦守. (2013). 「小学校外国語活動におけるポートフォリオを活用した5年生児童の動機づけを高める授業の設計とその効果」. 『上越教育大学紀要』. 33, 285-294.
- Klenowski, V. (2002). *Developing Portfolios for Learning and Assessment: Processes and Principles*. London: Routledge Falmer.
- 國本和恵. (1998). 「E-mail交換による児童のWriting Skillと海外の文化の認識」. 『日本児童英語教育学会紀要』. 17, 79-90.
- 松崎邦守・北條礼子. (2007). 『ポートフォリオを教授ツールとして活用する授業設計：K看護専門学校における英語のライティング学習を事例として』. 『日本教育工学会論文誌』. 31(1), 69-77.
- 文部科学省. (2001). 『小学校英語活動実践の手引き』. 東京: 開隆堂.
- 文部科学省. (2008). 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』. 東京: 東洋館出版社.
- 日本英語検定協会. (2013). 『小学校での外国語活動及び英語活動に関する現状調査』. 2014年7月1日検索。
<http://www.eiken.or.jp/eiken/group/result/>
- 野呂忠司. (2007). 「小中連携と文字指導」『小学校英語と中学校英語を結ぶ－英語教育における小中連携－』.(松川禮子・大下邦幸編著). 東京: 高陵社書店. 102-118.
- Shöne, D. (1983). *The reflective practitioner: How professional think in action*. NY: Basic Books.
- 山本淳子. (2011). 「小学校英語教育居における国際交流の役割と意義」. 『新潟経営大学紀要』. 17, 103-116.
- 横石和子・北條礼子. (2013). 「児童の不安と学習意欲の関連性の類型に関する調査」. 『JASTEC研究紀要』. 32, 37-58.
- 吉田研作. (2009). 『『中学校英語に関する基本調査』から示唆されるもの』Benesse教育研究開発センター『第1回中学校英語に関する基本調査報告書』2013年9月16日検索。
http://benesse.jp/berd/center/open/report/chu_eigo/hon/pdf/data_02.pdf

The Development and Effects of Foreign Language Activities Utilizing Portfolios Aimed at Enhancing the Motivation of 5th Graders for Learning English: Focused on Learning Letters and Conferencing in Developing Portfolios

Reiko HOJO* · Kunimori MATSUZAKI** · Yuri KANEYASU***

ABSTRACT

In April of 2011, foreign language (English in principle) activities were formally introduced into 5th and 6th graders of all the public elementary schools in Japan. In addition, the activities have been conducted for over 70% pupils from 1st to 4th graders all over Japan. Since then, it has been reported that about 38% of both 5th and 6th graders have come to dislike the English activities, it is crucial to enhance the positive attitudes of 5th and 6th graders toward these activities, so learning reading and writing English as well as portfolios can be expected to play this role of enhancing the students' motivation toward them.

From October in 2013 to January in 2013, 66 5th graders participated in this study, which was based on the results of the projects utilizing portfolios which aim to nurture students' reflective attitudes toward learning English. Data was obtained through a questionnaire and the students' comments at conferences held twice during the study, and pre-and post quizzes about reading and writing English letters and short words. First of all, the results of the questionnaire revealed that the project including both reading and writing English, and utilization of the portfolios was evaluated positively by the participants. Secondly, the comments supported the results. Finally, the results of the quizzes showed that the program was effective in improving the students' abilities of reading and writing of English words.

* Humanities and Social Studies Education ** Hokkaido University of Education Kushiro Campus
*** Graduate School student, English Course, Joetsu University of Education